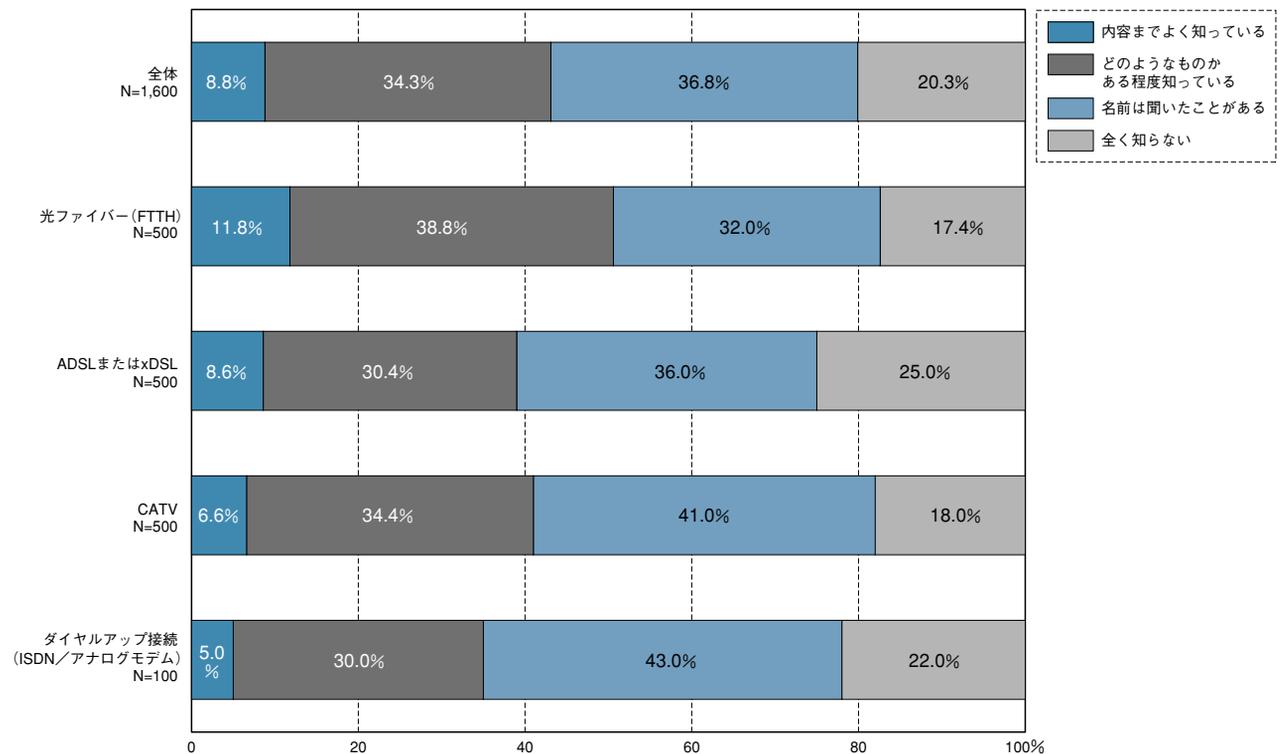


IP映像配信 (多チャンネル放送やビデオオンデマンド)

IP映像配信サービスの認知は約4割、光ファイバー利用者はさらに高め

資料2-2-21 IP映像配信サービスの認知度 [全体と接続回線別]



IP映像配信サービスに対する認知状況は、「内容までよく知っている」と回答した人は8.8%、「どのようなものかある程度知っている」は34.3%で、ある程度内容まで認知している人が約4割となっている。光ファイバー利用者の内容認知者は50.6%とわずかが半数を超えており、やや認知率が高いことがわかる。

©impress,2005

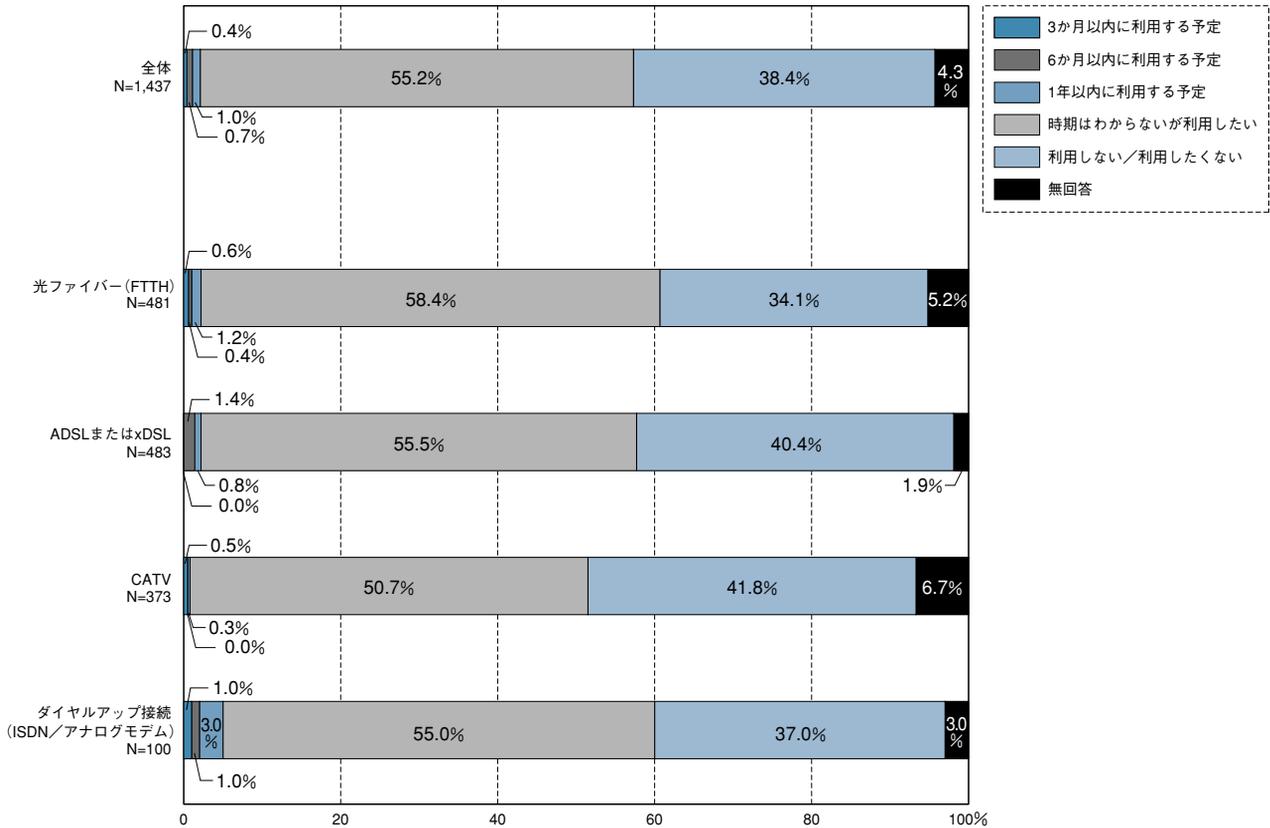
IP映像配信 (多チャンネル放送やビデオオンデマンド)

IP映像配信サービスは約6割が利用意向あり

資料2-2-22 IP映像配信非利用者の利用意向 [全体と接続回線別]

第2部

個人利用者動向



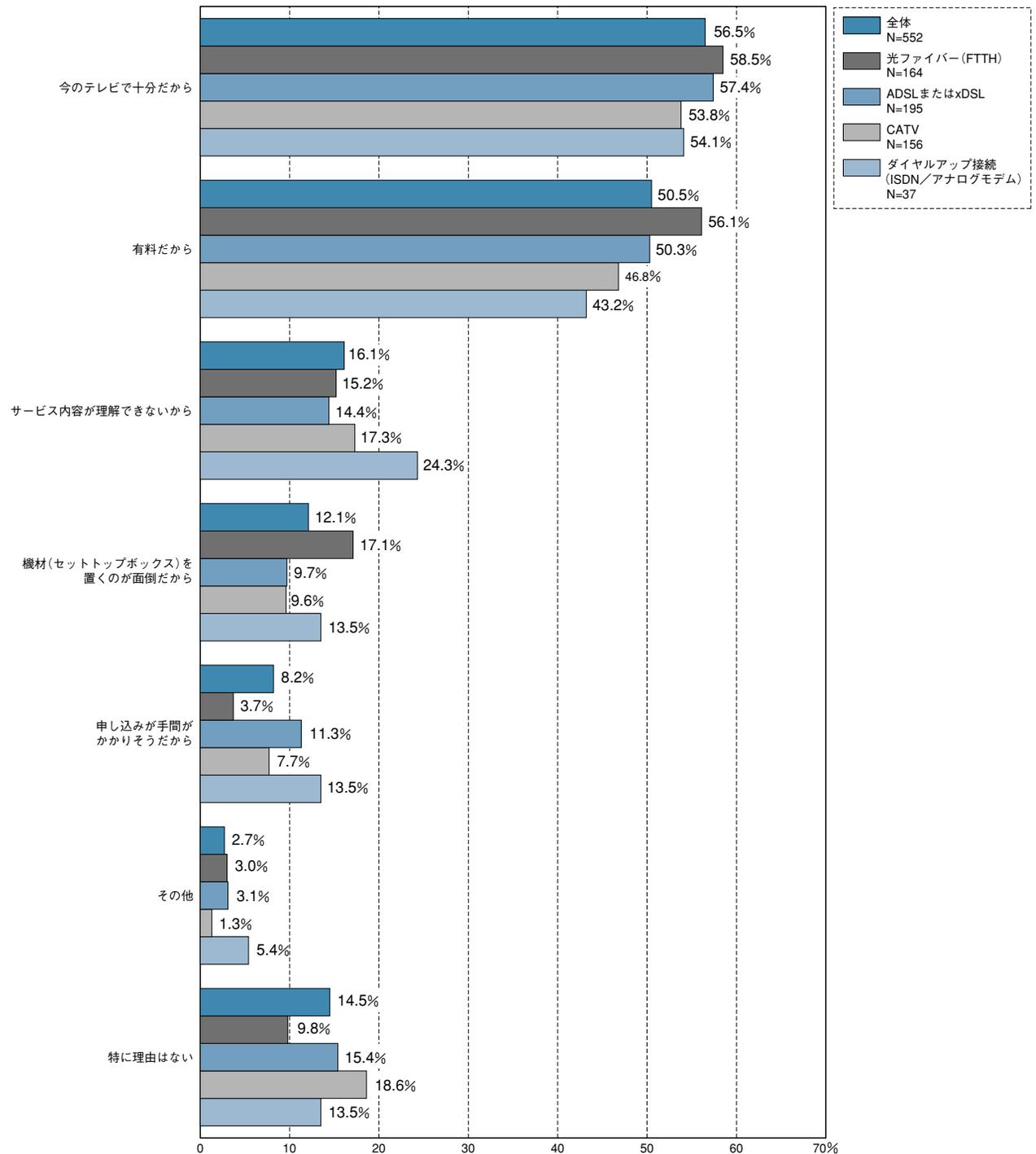
IP映像配信サービスの非契約者の約6割が利用意向を持つ結果となった。「時期はわからないが利用したい」と回答した人が過半数の55.2%で最も多く、サービス導入には少し時間が必要と思われるが、将来的な市場は大きいことが予測される。

©impress,2005

IP映像配信 (多チャンネル放送やビデオオンデマンド)

現状の満足とコスト意識がIP映像配信サービスの阻害要因

資料2-2-23 IP映像配信サービスの非利用理由 [全体と接続回線別]



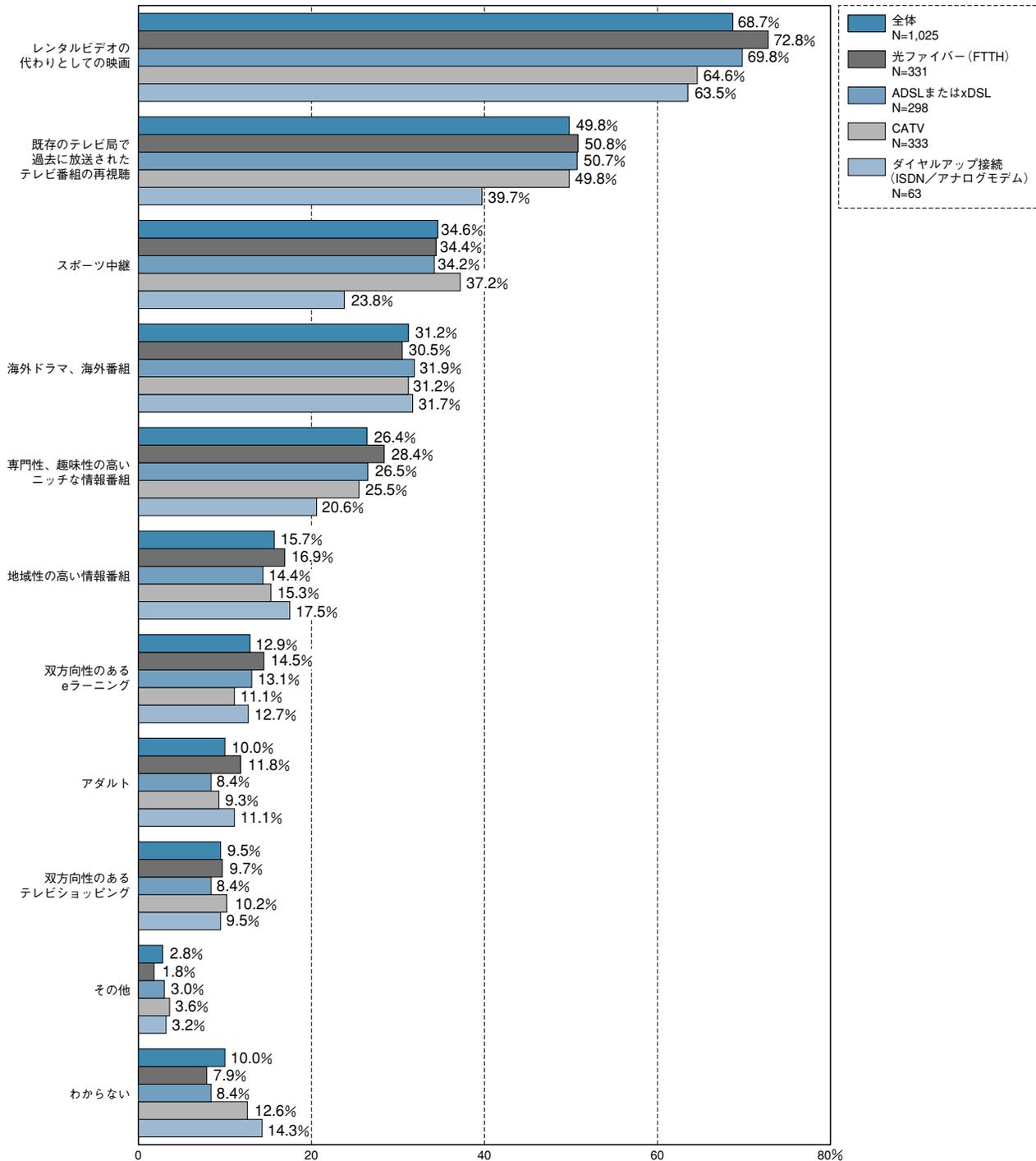
IP映像配信サービスの非利用意向者にその理由を聞いたところ、「今のテレビで十分だから」と回答した人が56.5%、次いで「有料だから」と回答した人が50.5%で、これらが2大阻害要因となっている。そもそもテレビ視聴に対してそれほど積極的でないといった姿勢や、テレビは無料で見るものといった意識が背景にあるものと思われる。

©impress,2005

IP映像配信 (多チャンネル放送やビデオオンデマンド)

利用したいサービスのトップはレンタルビデオ代わりの映画配信

資料2-2-24 今後IP映像配信で利用したいコンテンツ [全体と接続回線別]



IP映像配信サービスの利用者および利用意向者に利用したいサービスを聞いたところ、「レンタルビデオの代わりとしての映画」と回答した人が68.7%と最も多かった。今後、IP映像配信サービスがレンタルビデオ店に代替されることが予測される。また、「既存のテレビ局で過去に放送されたテレビ番組の再視聴」も49.8%と約半数の人が回答しており、今後著作権問題が解決されれば、過去のテレビ番組は利益率の高い商品になるものと思われる。

©impress,2005



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp